

学外研修報告

令和元年度国立大学法人機器・分析センター協議会に参加して

共通機器部門 藤高 仁

1. はじめに(目的等)

国立大学法人機器・分析センター協議会は、参加機関に設置されている共通分析装置を管理する施設の教職員が、施設運用のために協議や情報交換を行う全国会議である。

2. 期間・場所

期間:令和元年 10 月 25 日

場所:千葉大学西千葉キャンパス

3. 参加者等

国立大学法人等学術機関で共通分析装置の施設及び装置の管理運用を支援する教職員

4. 研修内容

開催校主催による関連施設で業務を行う技術職員のために技術職員会議が開かれ協議会の組織改革に沿った技術職員会議の運用について協議が行われた。

午後より引き続き国立大学法人機器・分析センター協議会に出席し文部科学省の機器共同関連の概算要求等の説明を受けた。その後全国大学等遺伝子研究支援施設連絡会議の運用について広島大学 N-BARD 田中伸和先生の講演があった。午前中に協議のあった技術職員会議の報告と組織改革に伴う規定の改定等が行われた。

5. まとめと感想

協議会に先立って開催された技術職員会議で協議会改革に伴う技術職員会議の開催の方法を検討したこれまで同様に継続して会議を開催してほしいとの希望者が多く共用機器の運用について情報を得る有意義な場であることが確認できた。これまで以上に得られた情報や技術職員の活動を所属組織にフィードバックしていく必要があると感じた。

協議会では、文部科学省研究振興局学術機関課・大久保様より基調講演があり本学の機器分析施設を支援するための参考となった。

全国大学等遺伝子研究支援施設連絡会議の運用について広島大学 N-BARD 田中伸和先生の講演があり会の運用について国立大学以外に私学や企業等の研究機関の参加が増え連絡会議の運用にも変化が必要になっていることの説明がされた。

その後機器・分析センター協議会の運用組織改革について説明と承認作業が行われた。

今後益々分析装置にまつわる新規事業が打ち出される中で技術職員の活躍が各機関において重要となってくると感じた。